令和５年度
東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会
評価部会

令和６年１月 17 日（水）

東京都庭園美術館　新館２階会議室

午後１時 54 分開会

中村文化行政専門課長：それでは、少し時間より早いですが、全員そろいましたので始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから令和５年度東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会評価部会を開催いたします。

私は、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化行政専門課長の中村と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日御出席の委員の皆様を御紹介させていただきます。私から向かって左の席から順に御紹介いたします。

竹内順一委員でございます。

竹内委員：竹内です。どうぞよろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：中島良司委員でございます。

中島委員：中島です。よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：天野知香委員でございます。

天野委員：天野です。よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：長佐古美奈子委員でございます。

長佐古委員：長佐古でございます。よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：橋本優子委員でございます。

橋本委員：橋本です。よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都庭園美術館副館長の牟田でございます。

牟田副館長：牟田でございます。よろしくお願いいたします。

中村文化行政専門課長：それから、東京都庭園美術館事業係長の森でございます。

森事業係長：森でございます。よろしくお願いします。

中村文化行政専門課長：どうぞよろしくお願いいたします。

では、お手元の資料のほうの御確認をいたします。

まず、会議次第がございます。次に、資料１　東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会（評価部会）委員名簿、資料２　東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱、資料３　東京都庭園美術館美術資料収集方針、資料４　令和５年度東京都庭園美術館における収蔵品購入に関する方針について、資料５　令和５年度東京都庭園美術館収集候補作品一覧表、資料６　作家・作品説明書、それから、評価部会の評価表がございます。

評価表につきましては、東京都購入案件のもの、それから東京都庭園美術館購入案件のものの２種類がございます。

資料のほうはよろしいでしょうか。

なお、東京都庭園美術館の購入案件につきましては、後ほど牟田副館長より御説明いたします。

本日配付いたしました資料につきましては、委員会終了後に回収させていただきますので御了

承ください。

本委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は、作品が庭園美術館の収蔵品としてふさわしいか否かについて意見交換していただく部会で、また、評価部会は、庭園美術館の収蔵品としての作品価格を個別の委員の方々に御評価いただくものでございます。

当評価部会で評価をお願いする作品につきましては、本日午前に開催いたしました収集部会において、収蔵するのが適切であるという御意見をいただいております。

また、評価対象資料の価格評価に関する議事は、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱第 10 の規定により非公開となります。

当部会の議事録については、同要綱第 10 の第２項の定めに基づき、資料収集決定の後、公開を予定しております。公開に当たって、委員の皆様には、追って内容の確認をさせていただきます。

また、委員の皆様のお名前と現職名は、東京都のホームページ上に公開しております。

それでは、議事に入ります。

事務局から収集作品の説明をお願いいたします。

牟田副館長：それでは、まず私のほうから各案件の説明に先立ちまして、当館の美術資料収集方針について確認をさせていただきます。

お手元の右肩に資料３と書いてある資料を御覧ください。東京都庭園美術館美術資料収集方針でございます。

当館の美術資料の収集に当たりまして、以下の方針に沿って、首都東京、国際都市東京の美術館にふさわしい美術資料の収集を図るとしております。

まず１番目に、収集の基本的な考え方でございますが、当館は、歴史的な価値を有する建造物である旧朝香宮邸を保存し、及び公開するとともに、その建物及び庭園を生かして美術作品等を展示することにより、もって都民の教養並びに学術及び文化の発展に寄与するため設置されている。この設置目的を果たすため必要な美術作品等を収集するとしてございます。

続きまして、収集対象でございますが、アからエまでの４点ございます。

まず、旧朝香宮邸旧蔵資料及び美術資料。それを我々としましては、第一級の資料と位置づけておりまして、当館に直接的に関係のある資料ということで重要視をしております。

続きまして、旧朝香宮邸建設に関わったアーティスト及び団体が制作した美術資料ということで、当館の内装に直接的、間接的に関わりましたフランス人アーティストを中心として、この建物の装飾についてのいろいろな来歴等が分かる資料を２番目に優先順位が高いものと位置づけております。

また、アール・デコ様式との関連を有する美術資料も併せて収集対象としております。

最後にエの項目、建物公開及び庭園公開事業で必要とされ、芸術的、資料的価値が高いと認められる美術資料。こちらに関しましては、必ずしも旧朝香宮邸ですとか、あるいはフランス人のアーティスト等に関わることなく、当館で毎年１回開催しております建物公開展、または庭園公開事業等において活用が見込めると判断されたものにつきましても、併せて収集対象としており

ます。

続きまして、収集分野でございますが、こちらはアからケまでの項目に分かれております。

絵画、彫刻、工芸、デザイン、家具、服飾・装身具、映像写真等による造形表現、資料、その他という形で分類をしております。

４番の収集方法につきましては、購入、寄贈及び寄託等によるものとしております。収集に当たっては、学識経験者を中心とした「東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会」の意見を聴くものとするとさせていただいております。

続きまして、収蔵品購入に関する具体的な方針でございますが、右肩に資料４と振っております資料を御覧いただきたいと思います。

当館の収蔵品の購入に関しましては「東京都庭園美術館美術資料収集方針」に沿って行うことを原則としております。今回定める方針といたしまして、令和５年度の収蔵品購入の具体的方針を示すものでございますが、３点ございます。

まず、１番目が「東京都庭園美術館美術資料収集方針」に則り、東京都庭園美術館における美術資料のコレクションをより充実させる観点で収集を図ること。

２番目といたしまして、首都東京の美術館にふさわしいコレクションを形成するため、芸術的、資料的価値が高い作品を対象とする。条例に規定される旧朝香宮邸の公開に際し、都民に対してより充実した展示環境を提供するための美術資料等に焦点を当て計画的に収集を行う。

３点目といたしまして、国内唯一のアール・デコ様式の専門館として同時代の装飾様式を中心に据え、美術資料の充実をもって都民の知的関心に応えるとともに、この分野の調査・研究に資することを目的としております。

以上、購入方針でございましたけれども、それでは今年度の案件について御説明をさせていただきたいと思います。

まず、本日評価をお願いする作品は、購入が９件ございます。例年、寄贈等もございますけれども、今年度に関しては購入のみ９件となります。

まず、この９件の内訳につきまして、例年と異なる点がございますので、簡単に私から御説明をさせていただきますが、庭園美術館の収蔵品の購入につきましては、東京都の予算で作品の収集を行っておりますが、今年度に関しましては開館 40 周年を迎えておりますことを記念しまして、館独自の財源を作品の収集に一部充てることといたしました。庭園美術館の財源による購入分を館購入案件としまして２件、今回は御提案をさせていただいております。都費購入分が７件、館購入分が２件、合わせて９件が今回評価の対象とさせていただいているものとなります。

それでは、具体的な内訳につきましては、事業係長の森より御説明をさせていただきます。

森事業係長：では、作品を実際に御覧いただく前に簡単に御説明させていただきます。

こちらの資料６のほうですね。画像が入っているＡ３の資料を御確認お願いいたします。

まず、１番ですね。エドゥアール・ベネディクトゥスの「ヴァリアシオン」になります。

エドゥアール・ベネディクトゥスは装飾美術家、画家、作曲家、デザイナー等、多彩な分野で活躍した人物で、皆様も御記憶かもしれませんが、昨年の委員会においても「ヌーヴェル・ヴァ

リアシオン」というベネディクトゥスのデザイン集を評価いただきました。その結果、当館では現在のところ、ベネディクトゥスのこうしたデザイン集を２つ収蔵しておりまして、今回が３つ目、デザイン集は全部で３つあるそうなんですが、３つ目最後の１点、そして最も初期に発行されたデザイン集になります。

これまで当館では、この２つのデザイン集を広く活用し、展示でも御紹介をしてきました。

今回、このもう一つの作品を探しておりまして、やっとコンディションが非常によく、色彩も非常に美しいままであり、20 枚全てのプレートがそろっているものが見つかりまして、今回候補とさせていただいております。

ベネディクトゥスといえば、当館においては、殿下居間の壁紙やカーテンのデザインを担当しております。非常に重要な作家として当館では位置づけておりますが、まだ本格的に日本で紹介されているとは言えない作家の一人です。

ですので、この３冊目のデザイン集の収蔵を機に、改めてこのゆかりのある作家の調査、研究を深め、将来的にいい形での発表の機会をつくれたらと思っております。

次に、２番を御覧ください。２番と、それから３番に関しては、ルネ・ラリックの小さなガラスの小作品を挙げさせていただきました。いずれも食卓のテーブルの上で使われていたガラスのメニューになります。

ラリックのメニューといえば、メニューの紙を挟み込むような形でのメニューホルダーはたくさんございますけれども、こうして、直書きのもの、鉛筆もしくはチョークのようなもので書かれていたのかもしれませんが、直に書いて終わったら消すというような形のメニューは今のところレゾネにおいては４種類掲載されております。そのうちの２点、どちらも「ぶどう」がモチーフになっております。あと、ほかには魚と鳥があるようです。

２番に関しては、「ぶどう（マスカット）」のもの。３番に関しては「ぶどう（シャスラ）」、私たちにはあまりなじみがないですけれども、スイスやフランス等で栽培されている白ワインの品種だと聞いております。

作者のルネ・ラリックは、当館においては最も重要な作家として位置づけておりまして、館内の装飾の至るところにあったりとか、コレクションの中にも花瓶や食器、燭台等もありますけれども、さらに言えば、ラリック自身の個展も複数回開催してきました。

この作品は小品ながらも果実というモチーフの点から、例えば大食堂にはラリックによる照明「パイナップルとざくろ」もございますし、こうした果物モチーフとの関連からいっても、テーブルセッティング等に一緒に展示することにより、小さなアクセントとして非常に機能して、展示効果も高い作品だと考えております。

次に、４番。こちらは現代作家、さわひらきの「ｐｉｌｇｒｉｍ」という映像作品です。白黒の映像で、長さ７分 23 秒の短い短編になっています。

こちらの画像からも分かるように、この映像は旧朝香宮邸を舞台に撮影されたものです。2022 年の「旅と想像／創造」展にも出品されました。

作家の、さわひらきは映像作家として中堅、あるいはもうベテランの域に達していますけれど

も、国内外で非常に評価も高く、現在は基本的にはロンドンに拠点を置いて活動を続けられています。

映像の特徴としては、こうした日常風景の中に小型飛行機のモチーフであるとか、あるいは想像上の動物、そういったものを登場させて、リアルとファンタジーがミックスしたような形で映像世界をつくり出し、鑑賞者に大きな想像力をかき立てるような作品をつくっています。

本作は、旧朝香宮邸を舞台に、小さなジェット機が飛び交うというような映像になっています。その中には旧朝香宮邸ゆかりのボンボニエールのプロペラ機をかたどった小さな銀器も飛んだりしております。過去と現在を行き来し、そして私たちを 90 年前の世界へといざなってくれる作品になっています。

当館ではドキュメントとか写真とか、そういったものはたくさん所蔵しておりますけれども、90 年前の例えば雰囲気であるとか空気感をノスタルジックに想起させるというような作品は非常に貴重であり、こういったものも併せて建物公開展で広く紹介したいと考えております。

次、５番ですね。５番から７番までについては朝香宮家に関わる資料になっています。

５、６番が朝香宮家の滞欧アルバム、ヨーロッパにいたときの写真を束ねたようなアルバムが２点と、それから７番は朝香宮夫妻のポートレートになっています。

朝香宮夫妻は 1922 年末から 25 年まで、長きにわたりフランスに滞在しましたが、御自身がカメラが大好きで、カメラも所蔵しており、いろいろな場所でスナップ的に写真を撮っております。

この５番のアルバムについては、南仏からパリまで自動車旅行をした際のスナップ写真、例えば同行者のポートレートであるとか風景、そういったものが束ねられた写真で構成をされています。

６番は視察で訪れたスカンジナビア、スコットランド、ドイツが中心になったアルバムです。朝香宮夫妻はフランス滞在時に視察を兼ねて各国を訪ねておりますが、まだ詳細については解明されていないことも多々ありまして、こうした写真資料をコレクションすることにより、抜けていた足跡とか行動の穴を補完する一助とすることができると思います。これ以外にもドキュメントの資料もございますので、そういったものと併せて新たな発見も期待されることと思います。

次は、庭園美術館購入作品の１番です。

庭園美術館購入作品の１、２番とも、ガラスによる工芸作品であり、どちらもインパクトのあるミュージアムピースと言える作品だと思っております。

１番のフランソワ＝エミール・デコルシュモンの「鉢」ですが、デコルシュモンは 20 世紀前半にパリで活躍したフランスのガラス工芸作家です。色ガラスの粉末を型に詰めて成形するパート・ド・ヴェールの製作に生涯注力し、成形や鋳造、研磨の方法、素材の組成等に独自の取組をいたしました。

本作品が製作された 1920 年代には、時代がアール・ヌーヴォーからアール・デコへと移り変わる中で、デコルシュモンもまた幾何学的な模様や、軽やかというよりも重厚感のある造形へと少しずつシフトしていきます。

本作は 1925 年頃に製作されたパート・ド・ヴェールによる美しい青のグラデーションが印象

的な作品です。鉢の外側には幾何学的な装飾が施され、内部の底面には果実の模様が浮き彫りのように浮かび上がってくるというような模様が施されています。

ガラス器といえば、当館にとってはルネ・ラリックではあるのですが、同時代に製作されたデコルシュモンのこのような作品もまた、ガラス作品の表現のバリエーションであるとか幅広さを伝えるために非常に期待されるものだと思っております。

次、２番ですね。２番はドーム兄弟とルイ・カトナによる「テーブル・ランプ」です。

このテーブル・ランプですが、上部のガラスによるシェード部分がドーム兄弟、そして下部の鉄の工芸がルイ・カトナによるものです。この２者の組合せで幾つかのテーブル・ランプを製作していたようでした。

この上のシェードの部分は、直線的な構成によるシンプルなフォルムをしており、一方で下の部分は球体で渦巻模様の非常に動的なデザインで構成されています。この上下のユニークなデザインのコントラストと、白と黒、あるいはガラスと鉄という対比の点からも非常に優品だと思っております。アール・デコ期を鮮やかに象徴する作例の一つとして、また、実際に明かりを本館内で灯して照明器具としても展示をしていくことにより、この時代の室内空間が持っていた光と影、グラデーションをお客様に伝える作品ではないかと期待しております。

以上、簡単ですが作品の説明をさせていただきました。

中村文化行政専門課長：庭園美術館からの説明は以上ですが、ここまでで何か御質問はありますでしょうか。

—よろしいでしょうか。

これから作品の実見をしたいと思いますので、案内のほうよろしくお願いいたします。

（　委員離席　）

（　作品検分　）

（　委員着席　）

中村文化行政専門課長：お疲れさまでした。

それでは、作品を御覧になって何か御質問はございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、評価方法の御説明をいたします。評価表に金額を記載していただきまして、署名をいただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの平均値を評価額といたします。金額は税込みのものを御記載ください。

評価方法について何か御質問はございますでしょうか。

それでは、お手元のボールペンで御記入をお願いいたします。御記入がお済みになった方は事務局が確認いたしますのでお声がけください。確認が終わりましたら御退席いただいて結構でございます。

冒頭に御説明させていただきましたが、お配りした資料一式は回収いたしますので、机の上に置いたままにしていただければと思います。

（委員評価表記入・回収）

午後３時 16 分閉会

以上